

暑さ忘れて陰忘る

暑い時でも木陰に入ると涼しさを覚えます。

まさに「おかげ」で炎暑をしのげるわけですが、

その暑さが去ると、私たちは木陰のありがたさを

忘れがちになります。そのように、苦しい時に

人から受けた恩も、楽になるとすぐ忘れてしまう

たとえとしていう諺が「暑さ忘れて陰忘る」です。

「雨晴れて傘を忘る」というのも同じ意味です。

現代に生きる私たちは、暑いとすぐエアコンをつけて、

室内の熱気を冷たくすることばかりしているために、

自然から涼をとることを忘れがちです。

そうして人工的な涼しさばかりを求めていると、涼しい木陰があることも忘れてしまうような気がします。

又、エアコンは人間が作り出した機械であるために、その恩恵を感じにくいものです。

もちろん木は自分で陰を作って、人間や動物に涼しさの恵みを与えてやろうと思っているわけではありません。この恵んでやろうと思わずに恵むことこれを「布施」といいます。

自然は無償の恵みを生き物に施しながら、知らん顔していますが、暑さを忘れて陰（恩恵）を忘れるのは、いつも人間の方なんです。

